

〔A類社会選修, A類環境教育選修, B類社会専攻 対象〕

## 日本史B 解答例

令和4年度

一般選抜前期

解答

I

問1

- a 紫式部
- b 受領
- c 唐 (宋も可)

問2

(1) (解答例)

平安時代中期における三人の能書(書の上手)のこと。書風は和様・上代様と言われるもので、流麗・優美な仮名および草書体で知られる。

(2) 小野道風 藤原佐理

問3 (解答例)

平安時代の婚姻形態は通い婚(婿入婚)が主流で、生まれた子供は母方で育てられた。こういった社会ゆえに、天皇の母方の親族=外戚が力を持ち、天皇の後見として摂政・関白の地位についた。この政治形態が摂関政治である。摂関の地位を目指す男性貴族たちは、娘や妹などの女性親族を後宮に入れ(入内)、天皇との婚姻関係を結ぶことで、次世代の天皇となる皇子の誕生を期待した。

問4 (解答例)

894年における菅原道真の建白による遣唐使中止は、唐王朝の内乱により大陸情勢が不安定化し、入唐が難しくなったことによるものであった。ただし大宰府を拠点とした唐人らとの交易は継続され、文物の流入は断絶しなかった。日本が長期にわたり取り入れた唐の文化や文芸を消化することで、結果的に国風(和風)と称される文化が熟成されることとなった。

〔A類社会選修, A類環境教育選修, B類社会専攻 対象〕

## 日本史B 解答例

令和4年度

一般選抜前期

解答

II

問1

(1)

A－e

B－a

C－d

D－b

E－c

(2) E→D→B→A→C

問2

(1) 時政

(2)

X－あ

Y－う

(3)

X (解答例)

鎌倉幕府の成立から親王将軍までの時期を編年体で記録した、幕府の公式な歴史書『吾妻鑑』である。頼朝に対し、「御」などの最も丁寧な表現を使っているのは当然として、北条氏に「殿」を使い、和田などの有力御家人には使わないことから、幕府の内部、かつ北条氏に好意的な立場の人物により編纂されていると想定される。

Y (解答例)

史料Aでは、一地方武士に過ぎない北条氏には蔑称を使い、頼朝を呼び捨てにしていることから、執筆者は武家勢力を見下す貴族の立場にあり、ゆえに頼朝の権利要求に怒りを覚えていることがわかる。九条(藤原)兼実の日記『玉葉』と考えられる。兼実は、旧勢力との癒着を嫌った頼朝の推挙で摂政に就任することとなり、摂関家九条家の祖となった人物である。

〔A類社会選修, A類環境教育選修, B類社会専攻 対象〕

## 日本史B 解答例

令和4年度

一般選抜前期

解答

III

A

問1 享保の飢饉（享保飢饉）

問2 江戸時代の年貢収納は、主に現物の米（粃）で行われ、大名ら支配層はそれらを都市部で換金して貨幣収入を得る。そのため米価が安いと得られる貨幣が少なく、相対的に諸色高になり商人も物が売れない。

問3 イ

問4 困粃（困米） 松平定信

問5 享保七年に日本橋に高札を建て、商人資本を募り大規模な新田開発を請け負わせた。町人請負新田であった。

問6 イ

B

問7 a 歌舞伎 b 為永春水

問8 アーエーウーイ

問9 寺子屋

問10 黄表紙ーうーオ 滑稽本ーいーウ

問11 寛政改革によって一旦は引き締められた社会・文化であるが、11代将軍・徳川家斉の長期政権期（大御所時代）に再び活気づいた。この時代の文化を化政文化という。その特徴は、文化期から天保改革の直前あたりまでを射程にした時期で、都市の繁栄を背景に、多方面で成熟した文化である。たとえば、江戸時代を通じて発展してきた出版メディアと、民衆が獲得した文字リテラシーによって広範な読者が生まれ、化政文化の文芸世界を層の厚いものにしたといえる。

〔A類社会選修, A類環境教育選修, B類社会専攻 対象〕

## 日本史B 解答例

令和4年度

一般選抜前期

解答

IV

問1 エ イ ア ウ

問2 ア

問3 エ カ (順不同)

問4 主な戦場が朝鮮半島だったこと、また甲午農民戦争が起こっており抵抗があったことなどによる。

問5

a 漢の呂后 b 神功皇后

c 解答例： 感情的 非合理的 攻撃的

問6 第1次世界大戦

問7 1911年には神功皇后は懐妊中であると描かれ、女性として軍事行動をしていることが明らかだが、1920年には懐妊中の語がなくなり、男のような存在として描かれている。軍事は男性が行うものという認識が強化されたように感じる。

問8 以下のような点について論じられていたらよい。

安産と軍事行動とが同居していた近世社会での神功皇后のイメージは、近代になって軍事的な要素を消去したり、軍事行動から攻撃的な要素を消去するなど改編が加えられた。また、中国女性に対する日本女性の優位性が強調されると同時に、1920年には女性の軍事行動を男性的なものとして例外視するようになる。一貫しているのは、軍事は女性的ではないという発想や、女性を男性より劣った者と見なす発想である。同時に、神功皇后という軍事的な女性を、全面的には否定できないという側面も見られる。

問9 ダグラス・マッカーサー

問10 ア

問11 以下のような点について論じられていたらよい。

雪の重みを占領支配にたとえ、それに耐えて色を変えない松の木を男らしいものと形容することで、敗戦後の苦難や、占領されて変化していく自身の立場や日本社会に、女性化された屈辱感を読み取ると同時に、それを耐え忍ぶ「男らしさ」を期待している。松の木に「日本らしさ」を読み取ってもいる。

問12 以下の点などを読み取れていたらよい。

写真Dからは、マッカーサーとの関係で天皇の権威が失墜していることを宮内省が嫌ったこと。写真Eからは、娘に対して大きく写る父の立場や、前を向く天皇の視線などを使って、天皇の権威や男性優位の回復を企図していること。あるいは、家族の情愛を前面に出すことで、軍国主義からの離脱や平和主義への転換、庶民的な日常生活、民主主義や象徴天皇制、男女平等などを印象づけていること。それが、同日の「人間宣言」と連動していること。娘の存在が日本社会の存続を暗示していること、など。